

まちの話題

区長交代の太鼓が鳴り響く

3月9日、入佐地区に大きな太鼓の音が響きました。太鼓を叩くのは新年度に就任する入佐地区の各組長の方々です。これは、新区長が就任したことを地区内のみなさんにお知らせするための行事です。江戸時代ごろからこの地区に伝わる、区長交代の伝統行事です。



この日は、前区長宅からスタートして、集落内を2時間近くかけて回ります。「ドォーン、ドォーン」と、区長交代を告げる太鼓を乗せたトラックが近づいてくると、各戸の玄関などで地域のみなさんがお出迎え。新しく就任した村上浩一区長と各組長に、お神酒やお茶などを振る舞っていました。

小学生が清和文楽鑑賞

3月6日、町内全小学校の6年生と清和小学校全児童を対象にした鑑賞会が、清和文楽館で開かれました。これは、小学校を卒業する6年生の子どもたちに、農村文化として受け継がれてきた町の宝「清和文楽」に触れてもらおうと、教育委員会が毎年行っているものです。



見事に清和文楽を披露した清和小6年のみなさん

この鑑賞会で、清和小6年生が、6月から総合学習の時間に練習を重ねてきた「傾城阿波の鳴門」を披露しました。太夫の語りと三味線、巧みな人形使いをみせた清和小の6年生は、物語の情感を事に表現しました。この後、保存会の方々による「日高川入相花王」を鑑賞。最後に芝生広場で実際に人形に触れ、地域の宝をその手に感じていました。

蘇陽南小思い出出通りができました

蘇陽南小学校の6年生が、校舎2階に思い出通りを作りました。これは、昨年閉校した菅尾・大野・馬見原の3つの小学校の歴史を、蘇陽南小6年生が協力してまとめたものです。思い出通りには、旧3校の校旗や校歌、行事の写真などが掲示され、生徒はもちろん、地域の方々がいっしょに学校を訪れて、思い出に触れるようになっていきます。旧菅尾小出身の安武多恵さんは作業を振り返りこう語りました。「歴史をまとめるのは大変だったけど、思い出がたくさん蘇ってきた。たくさんの人に見て欲しいです。」



蘇陽南小6年生のみなさん



山脈(やまなみ)が500号

本誌「季節のうた」に毎回寄稿いただいている「やまなみの会」。18人の会員が協力して、毎月1回発行を続けてきた俳句・短歌集「山脈」が500号を迎えました。

昭和40年3月に第1号を発行してから、幾度となく存続の危機を乗り越えてきた「やまなみの会」。500号まで約48年の歳月が流れました。「500号までを合い言葉にやってきたことが実を結んだことが喜びです。」



「山脈」を編集したみなさん



原田和子さんをはじめとする編集員のみなさんは一様にほっとした表情でした。